



皆さんこんにちは

継続するのがやや苦手な私ですが、なんとか10回まで続けることができました。

今回は、セカンドオピニオンを話題にしたいと思います。

**Second Opinion** という英語のカタカナ語なので、

直訳では、第二の意見となるでしょうか。


(意識をするとすれば、別の医療機関の意見を聞きに行くこととなるかと思います)


すなわち、まず第一の意見があるわけです。

これは、現在診療を受けている医療機関＝医療チームの意見です。直接伝えるのは、主治医ないし担当医となると思います。現在の医療では、医師が一人で単独で意思決定をする場面はさほど多くなく、他の医師（同じ専門領域、異なる専門領域を含め）と相談した結果を元に話していると思います。また、関連する医師以外の職種、例えば、薬剤師や看護師といった多職種ですりあわせたその方一人一人にとって現実的な治療方針を提示しているだろうと思われます。

性善説を振りかざすつもりはありませんが、前提条件として、少なくとも保険診療をなりわいとしている医療機関では、何とか目の前の患者さんにとってよりよいものをいうスタンスで、治療法を提示していると考えていただきたいと思います。この方針が必ずしも同一でないかもしれない、もしかしたら別の可能性はないかということは当然、話を聞いた時にでてくることと思います。これについては、遠慮なく、第一の意見を述べた、医療者にぶつけていただくのがよいと思います。その上で、腑に落ちない点があったり、それでも別の医療者の意見を聞いて判断したいと考えた場合に利用されるのが、第二の意見＝セカンドオピニオンということになります。

当院からセカンドオピニオンを希望される場合、多くは有名病院、がんセンター等が多いですが、ひとつ注意点があります（もちろん、当院にセカンドオピニオンを受けに来る方もいらっしゃると思います）。





こうした病院で、意見だけをきいてくるのが、セカンドオピニオンを希望するということであって、その病院で治療そのものを受けたい場合には、セカンドオピニオンということではなくて診療希望として紹介する必要があります。

セカンドオピニオンはいわゆる保険診療ではなく、病院毎に決められた料金設定がされます。30分程度の説明で1万円くらいのことが多いかと思います。一方、治療もふくめて希望される場合、それらの多くは保険診療で行うことになりますから、こちらは一般診療に含まれます。

また、セカンドオピニオンをうけた後は、必ず、元の医療機関に一度返事を持って受診してください。それを受けて再度、診療について相談をする必要があります。この段階で、やはり、セカンドオピニオンをうけた病院での治療を希望された場合にはその手続きを別途すすめる必要があります。

時に、弱みにつけ込むかのようにおいしい話ばかりをする医療者があれば、それについては少し懐疑的な気持ちをもって対応していただいた方がよいように思います。そんなにいいものであれば、他の施設でもすすめるはずで、それをすすめないことには何か理由があると思います。今日では、治療における良い点と、悪い点を必ずお話しする時代です。もちろん、恐ろしいことばかりいわれるのも良い気持ちではないと思いますが、これらの情報は治療を選択する上で必須の情報です。

最後にもう一点。がんを病んでいると、いいときも悪いときもあります。特に具合が悪いときに遠方まで通院することは大変になりますから、第一の意見を出した地元の医療機関との関係性は良好に保っておいた方がよいと思います。どのような選択をされるかは自由ですが、意見を述べる側の善意にも心をむけていただけると、良好な人間関係を保ったままで、様々な状況に対応できるかと思います。

では、また。

